

# 白藍塾オリジナル

## 2024年度 入試小論文分析&解答のヒント

2024年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ● 慶応・文学部

例年通り、長めの要約問題+短めの小論文問題の2本立て。課題文は、キーワードさえ押さえておけば比較的読みやすいが、論理展開が入り組んでいて、要約するとなると少々厄介かもしれない。簡単にまとめると、次のようになる。

「産業社会は、希少な財・サービスをめぐる競争によって人類を豊かにしてきた。だが、競争原理は無形の価値を利得に置き換え、人間の依存関係や自然の存在を忘れさせる点で限界がある。かといって、ある領域で競争をなくしても競争自体がなくなるわけではない。競争が争いに転化しないようにするために、勝敗の基準を多元化したり、負けた人を追い詰めないようにして、意図的に曖昧さを残す工夫が必要だ。それに加えて、競争が可能にする自立や効率といった価値観そのものを見直す必要がある」

設問Ⅰは、例によって全文要約が求められている。以上のような内容を、字数に合わせてまとめるとよい。

設問Ⅱは、「競争」について自分の考えを述べるのが求められている。ストレートに、競争を重視する社会のあり方の是非を問題提起するとよいだろう。ただし、課題文は競争原理の問題点を論じているものの、競争自体を否定しているわけではない。現実的にも、競争を全否定するような論じ方では説得力がないので、その点は注意が必要だ。

課題文では競争のプラス面はくわしく説明していないので、イエスで書く場合は、その点について掘り下げることができる。ただし、どちらかという、ノーの立場に立って、競争を重視しすぎることの問題点を論じるほうが書きやすいだろう。例えば、課題文では、競争原理の限界として3つの点を挙げているが、そのどれかに絞って掘り下げることができる。2つ目の限界は格差社会や南北問題、3つ目の限界は環境問題などと結びつけて論じることが可能だろう。

また、課題文が最後に触れている「自立や効率といった価値観の見直し」に焦点を当て、そうした価値観の弊害を論じることができるはずだ。

\* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>